

令和2年度 第2回香美町総合教育会議 議事録

【日 時】

令和3年2月22日（月）午後3時30分～午後5時30分

【場 所】

香美町役場2階第2会議室（香美町香住区香住870番地の1）

【出席者】

町 長 浜上 勇人

教育長 藤原 健一

教育委員 野村 道彦

教育委員 吉田 加代子

教育委員 安田 優二

教育委員 多田 好江

事務局	教育総務課長	清水 幸信
	生涯学習課長	裏戸 正範
	教育総務課副課長	山田 貴広
	こども教育課副課長	井上 修三
	こども教育課指導主事	前田 毅
	教育総務課主査	西本 英樹

【協議事項】

(1) 重点的に講ずるべき施策について

ア GIGAスクール構想について

イ いじめ・不登校について

ウ 学校版教育環境会議について

(2) その他

【議事要旨】

1 開会

(教育総務課長)

定刻になりましたので、ただいまから令和2年度第2回香美町総合教育会議を開催いたします。会議の開催にあたり、浜上町長よりあいさつを申し上げます。

2 あいさつ

(町長)

お忙しい中、お集まりいただき大変ありがとうございます。

すでにご承知のように、国内にワクチンが到着する運びになりまして、香美町も健康課に対策本部とあわせて、ワクチン接種の対策室を立ち上げたところです。

一番大きな課題は、但馬地域の中でも町内に開業医がとても少ないということです。香住区は開業医が一人だけということもあり、特に病院の先生をはじめ、開業医の協力もいただかなければ、町のワクチン接種もしっかりと対応ができないということがあります。小代区、村岡区は八鹿病院組合の医療圏域に参加していますので、八鹿病院管理者にワクチン接種の支援体制をお願いしています。

また、鳥取市を含む1市6町で構成する麒麟のまちの創成会議メンバーの鳥取市長にも、鳥取県東部医師会に協力がいただけるなら、香美町に向けた支援をお願いしています。

今年はコロナの感染拡大によって、学校現場にも長期の休業、夏休みの短縮など大きな影響がありました。町として、子どもたちを感染から守るための資機材の確保にもさまざまな検討を加えました。子どもたちはもとより、学校の先生にも大変な苦勞をおかけしたと思います。

今後もしできる限り、感染症対策に心がけて、少しでも教育現場に影響が出ない対応をとりますので、ご協力をいただきますようお願いを申し上げます。

(教育総務課長)

ありがとうございました。ここからは、浜上町長に進行をお渡しし、協議事項に入りたいと思います。町長よろしく申し上げます。

(町長)

協議に入らせていただく前に、皆さんにお諮りしたい件があります。本日、協議事項を3点予定していますが、2点目の「いじめ・不登校について」は、大変デリケートな問題で、内容的にも学校ごとに具体的な数値や事案が出てきますので非公開とし、3点目の「学校版教育環境会議」と協議の順番を入れ替えたいと思いますが、いかがでしょうか。

(教育委員全員)

異議なし

(町長)

それでは「いじめ・不登校について」を非公開とし、2点目と3点目の協議事項を入れ替えさせていただきます。

3 協議事項

(1) 重点的に講ずるべき施策について

ア G I G Aスクール構想について

(町長)

それでは協議に入らせていただきます。協議事項(1)の「重点的に講ずるべき施策」のア「G I G Aスクール構想について」概要を事務局に説明をさせます。よろしくをお願いします。

(教育総務課副課長)

- ・ G I G Aスクール構想を説明
- ・ タブレットや校内LAN配線などの整備状況を説明
- ・ タブレット、大型提示装置などの活用方法を説明
- ・ I C T活用に伴う今後の課題を説明

(町長)

ただ今、事務局からG I G Aスクール構想について説明を受けました。今の説明について、皆さんからご意見をお伺いしたいと思います。活発なご発言をお願い

いしたいと思います。野村委員いかがでしょうか。

(野村委員)

国の構想でもありますし、今後、機器を活用した授業など、どんどん活用していただきたいと思います。活用する側の課題が出ていましたが、どのようにして活用していくのか、どのような活用の仕方が適正なのかということを十分指導する側が、研修・検討し、十分見識を深めていくことが大切だろうと思います。

新規教育に対する設備面や支援は、町に十分にさせていただいて、適正な導入の仕方、研修を教育委員会で十分検討して、推進していただきたいと思います。

(吉田委員)

今まででしたら、パソコン教室の中での学習がほとんどですが、一人一台のタブレットということで、教室や外、家庭というように場所を変えて、いろいろな活動ができるという面で、これから学習用品の一部として取り扱って行く時代になったのではないかと思います。

国、町に予算をつけていただいて、物は十分準備していただき、新たに取り組めますが、物があっても、すぐにできるものではありません。

子どもたちは、興味を持って取り組むと思いますが、子どもたちに使い方やいろいろなルールをしっかりと指導していく体制が大事だと思います。

まずは、各学校の職員がしっかりと研修をして、早く子どもたちが使いこなせる指導を進めて行けたらと思います。

家庭に持ち帰った時には、指導者がそばにいる学校とは違って、どんどん進めていける子、先に進めないで困っている子がいる状態が考えられます。十分に学校で積み上げをして、家庭に持ち帰られればと思います。

これからタブレットを使って、個人でどんどん学習を進めて行けますが、それだけに閉じこもってしまうと、コミュニケーションが疎かになるので、十分にコミュニケーションが取れる学習の進め方も、研修しなければならないと思いました。とても良い取組ですが、準備段階が大事と考えます。

(教育長)

二人の委員が言われましたように、教職員がいかに機器を駆使して子どもたちに分かる授業をするかということが、一番大きな課題だと思います。

電子黒板とパソコンを使った授業を何回か行っている学校がありますが、パソコン関係が苦手な先生では、やはり指導力に差がでます。どの先生も研修し、使いこなして、子どもたちに分かる授業を展開してもらわないといけません。

先生の問題もありますが、小学校低学年の子どもたちを見ていると、非常に差があります。できる子は学校でやっていることが、もどかしくて待てない。できない子どもは、丁寧に教えてもらわないとできないという差があります。

まず、教育委員会が一番力を入れていかなければならないのは、教職員の研修です。吉田委員が言われたように、最終的には鉛筆と消しゴムのような感じで、パソコンが使えるようにならないといけないという思いで、使用計画を定めてスタートしています。全ての学校にパソコンが入りましたので、4月からということではなく、2月、3月にできるところから進めているところです。

(安田委員)

資料の1ページ目に「公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する構想」という文言があります。

個別最適化ということは、理想ではありますが本当に難しいです。パソコンの技術もそうですが、教師が子どもとコミュニケーションを取りながら、その子に対して最適な指導はどうか、子ども本来の能力を見抜く力が、すごく大事だと感じています。

パソコンの能力を高めると同時に、指導力の育成も疎かにならないように、研修を並行して行う必要があると思います。

あと、人と話して相談するよりも、メールで自分の悩みを相談するというケースもあるので、そういうことに役立てて、学校に行きづらい、心のつかえになっている子どもたちが救われるようなものになればいいと感じています。

(多田委員)

皆さんの意見に同感ですが、黒板だけでやっていた時代とは全く違う、本当に目の前で見ることができ、子どもたちが一斉に一つのものを共有化することがで

きるので、とてもありがたいことだと思います。

特にウェブ会議システムが利用できるということで、小規模校がチャレンジでお互いに学校間を行き来しますが、コロナ禍で行き来が難しい場合も、このシステムを使えば、さらに進めていけるということで有効に使えたらと思います。

それから不登校の子どもが学校に行けなくても、このシステムを利用すれば、学校で行われていることが家で分かる機会になります。そういう使い方もあるのでないか、学習権を保障することにも有効に使えるのではないかと思います。その辺も検討していただきたいと思います。

I C Tの良い部分ばかりですが、陰の部分があります。セキュリティの問題、健康に害を及ぼすものなど、子どもにとって思いがけないこともあります。見逃さずに、先生が細かく見ていただくことも必要だと思います。

(町長)

ありがとうございます。今、多田委員から発言のありました不登校気味の子どもの学習についても対応が可能ということで間違いないと思いますが、逆に学校に行かなくても学習できるということで、不登校を助長するような流れになっては困ります。できるだけそういうことも無いようにしなければなりません。

事務局、皆さんにG I G Aスクール構想の事業費について、詳しく説明してください。

(教育総務課副課長)

国の補助は、タブレット1台あたり4万5千円になります。令和元年5月1日の児童生徒数が1,196人、そのうちの3分の2の797人分の補助を受けて、それ以外は単費で導入しています。

(町長)

関連機器や環境整備もあわせて、全体の事業費はいくらですか。

(教育総務課長)

購入で約2億、一部リース物件がありますが、それを購入したものとすれば3

億程度になると思います。

(町長)

関連機器や環境整備も含めて。

(教育総務課長)

はい。

(町長)

突出して香美町が多いわけではありませんが、それぞれの自治体で大きな予算を投じて導入したものになります。多田委員が言われましたように、今後は、先生方にも技術の習得、活用の仕方、さまざまなことが考えられます。できるだけ有意義な使い方をしていただきたいと思います。

以前から、議会でも情報環境について議論がありますが、教育委員会の説明では、各家庭の情報環境については、個別の対応でタブレット使用が可能という調査をしていただいています。

できるだけ活用して、香美町に育つ子どもたちが、こういう環境に慣れていくことが、まず大事だと思います。説明や意見の中にありましたが、先生の年代の差なく使いこなしていただける研修や人材の派遣についても、町としても心がけていきたいと考えています。

(教育長)

町長、よろしいですか。多田委員が言われましたように、今後、学校間スーパー連携チャレンジプランはもちろんのこと、それ以外にも大型提示装置をはじめ、使って行きたいと計画しています。

教育委員会も今後、どのような形で活用ができるか、しっかり練って行きたいと思っています。

ウ 学校版教育環境会議について

(町長)

では、次の協議事項に入りたいと思います。続きまして、協議事項（１）のウ「学校版教育環境会議について」事務局より説明させます。

（教育総務課長）

- ・令和２年度学校版教育環境会議の開催状況の説明
- ・学校版教育環境会議での意見とアンケート結果の説明

（町長）

ありがとうございました。昨年は中学校の統合問題について、皆さんの意見、地域の意見、地域で行いました会議での意見を踏まえて、最終的に総合教育会議で、一中と二中の統合を決めさせていただきました。

当初、統合には２年程度かかるという思いでしたが、地域の皆さんの声をできるだけ早期に実現するため、来年度４月の統合に向けて教育委員会に準備を進めていただいているところです。

先ほど、事務局から詳しく説明がありましたように、今年度の学校版教育環境会議で、平成２６年の統合判断の可否に関わるまでの人数には達していませんが、地域によっては、そういう声が出てきているようです。

今年度はコロナ禍での開催ということ、どの会場も参加者、特に地域の皆さんの参加が少なかったようですが、各学校の結果を見て、皆さんのご意見、あるいは、今後の町の考え方についてのご意見をお伺いしたいと思います。

また、野村委員からお願いします。

（野村委員）

大きな問題なので、うまく自分の思いをまとめられるかどうかわかりません。大雑把な言い方かもしれませんが、平成２６年の答申に少人数教育をしっかりと充実して、教育の成果を上げていこうということがあったと思います。

統廃合については、具体的にせず、地域住民や保護者の意見を十分尊重していくという大きな方針が示されたと思っています。

昨年は、香住二中の統合ということで、保護者や地域を含めての問題提起、そして、それを受け止めた形での香住一中への統合がありました。

子どもの数の減少が著しくて、小学校においても教育環境がこれでいいのかということが喫緊の問題になり、保護者も地域も大きな課題になってきたと考えています。

3分の2には達していませんが、特に奥佐津、佐津小学校の保護者を中心とした意見で、あまりにも少ない児童の教育環境を改善して欲しいという思いが、表れているのではないかと思います。

教育に対する評価は、少人数教育をしっかりやってくれて非常にありがたいと、どの地域でも高い評価をしていただいていると思います。それとは別の問題で、子どもの数の減少、さらに極端な少人数になるという見通しから、今の教育に関しては認めていながらも、今後のこともしっかりと考えて欲しいという意見ではないかと思います。

多くの学校で、複式学級が予想される状況も見られますので、学校版教育環境会議での意見も踏まえながら、町として教育の方向、教育環境の方向を提案しながら、皆さんの意見を入れていくことが必要ではないかと思います。

保護者は「どうなるのだろうか」、「このままなのだろうか」という不安が非常に強いのではないかと、数字で3分の2に達していない状態ですが、十分に意見を取りあげて、検討していただきたいと思います。

うまくまとまりませんが、しっかりと先生が研修して、複式学級での教育を十分に研修されていると思いますし、学校訪問で複式学級の授業を見せてもらいましたが、非常に工夫されて、良くやっておられると思います。

ただ、これからは人数が極端なことになりますので、再度検討して、方向性を示していくべきだと思います。

村岡区小学校の意見の中に、村岡区に一つの小学校でいいのではないかとという意見もありますし、個人的にはいろいろな思いは持っていますが、全体として方向性に対する不安があるのであれば、それに応えていく必要があると思います。

(吉田委員)

今年の場合はコロナ禍ということもあり、単独開催や他の行事と兼ねるなどいろいろな開催方法があり、同じ開催条件ではありませんが、参加者が減っているところが気になります。もう少したくさんの方の参加があって、学校からの話を

聞いて、アンケートにも答えていただければ、それぞれの小学校区、中学校区の状態が分かりますが、参加者が減っている校区が多いので、少し考えないといけないと思います。

各校区で子どもが減ってきているので、いろいろな意味で不安な方が多くなっていると感じます。意見にもありますが、「同級生がいなかったらどうなるのか」というような、ほっとけない状態をひしひしと感じます。

どの校区も人数が減っていく状態にあるので、極端に人数が減ってきた場合に、どのような統合の仕方をイメージして考えていくのか、初めから、ここここが統合ということではなく、もう少し皆さんの意見を聞いて、方向性をしっかり話し合って進めていくべきではないかと思います。

(教育長)

野村委員が言われましたように、平成26年の答申に学校版教育環境会議で学校の存続について判断を仰ぐというものが、明記がしてあります。

その中で、3分の2というラインが明記してあり、3分の2に達すれば5年なくても、3年でも2年でも、統合は視野に入れて考えていくということです。

昨年、香住二中が統合のラインに達しました。すぐに地区の会議を開き、教育委員にも何回となしに意見をいただきました。もちろん大事にしたのが、地域の意見、保護者の意見をしっかり視野に入れながら、検討を加え、この場で提案していただきました。

平成26年から、小規模学校は大きな成果を上げていると思います。今年は、全国学力学習状況調査はありませんでしたが、ある小学校で問題を渡してさせました。すると、非常に高い数値を出しています。

中学校では英語検定の人数が数値に出ますが、少人数、香住二中と小代中では、3級の生徒が75%を超えています。やはり、大きな学校になると50%を割ることもある中で、小さな学校、小集団で力をつけています。

今年はコロナ禍で、チャレンジプランがあまりできませんでしたが、先生方の工夫によって社会性を身に付けるために、序列がつかないために、いろいろなことを勘案しながら、全校児童で取り組んだり、低学年・高学年で取り組んだり、できるだけ大きな集団で取り組んできています。その成果は、しっかり出してい

ただいています。

しかしながら、60%を超す佐津小学校と奥佐津小学校については、3分の2に達していないから統合しないということではなく、やはり統合も視野に入れながら、検討を加えていくべきだと思います。全く検討を加えないというのであれば、学校版教育環境会議の意味もないと思います。

例えば、アンケートの中で「奥佐津と佐津を統合して一つの学校にする」ということになれば、数年後また同じような形になります。

したがって、大事なのはどこで統合するのか、方向性を教育委員会が示すのか、意見を聞くのかということところです。それについては、保護者や地域の意見をしっかりと聞いて一つの方向性を出したいと思っています。

今のところは、令和3年度も小規模校の良さを生かした教育に一定の評価をいただいていますので、これをしっかりと頑張ろうということで、校長会には話をしようと思っています。

(安田委員)

アンケートの結果から見ても、奥佐津、佐津、それ以外のところでも小学校の今後のあり方を、心配されていることがよく分かります。

以前でしたら、小学校が地域から無くなるということは、地域からすると財産が無くなる感じで受け止められていました。

近年、学校を取り巻く環境も変わっています。交通手段もかなり発達していますので、あそこと統合できるのではないかと、もっと子どもたちの教育環境を良くできるのではないかとという保護者や、地域の考えも増えてきたと感じ取れるように思います。

そういう意味では、町としても統合するならば、どういう方向性があるのかということも見据えながら、地域の方々と再度、意見交換をしながら、方向性を見いだしていかないと、数字がまだだからということでは進まないと思います。

今回のアンケートの結果を基に、積極的に方向性を示唆できたらと思います。

(多田委員)

吉田委員が言われましたが、今回の学校版教育環境会議に出ていただいた地域

の方、保護者が少なかったということ、少ない人数の中で結果が出ています。

先生方も、小規模校の良さを生かした教育をされているので、地域の方、保護者、もっとたくさんの方に見ていただき、もう少し大勢の方の目を見た評価をいただきたかったと感じました。

ただ、小規模校ならではのきめ細かい教育の良さを、とてもしっかり受け止めて、自分自身が大きな学校で育ったけれども、小規模校に対して懐疑的だったものが、見方が変わったという評価もあり、小規模の良さを受け止めていただき、しっかりと見ていただいていると感じました。

ただ、長期的な見通しが持てないことへの保護者の不安はすごく強いのではないかと思います。子どもたちの数が、どんどん減っていくことは分かっているわけですから、長期的な変動を見据えたうえで、教育委員会として適正な学校規模について、基本的な考え方や方向性をある程度示していくことも必要だと思います。そのために、地域の声をもっと細かく伺う場も必要だと思います。

(町長)

ありがとうございます。委員の皆さんからご意見をいただきました。事務局からコロナ禍ということもあり、特に地域住民の参加が少なかったことと、奥佐津、佐津、長井、余部小学校は、同じような児童数に減少していますが、学校単位で、統合希望の考えに大きな差があると説明がありました。

余部小学校、長井小学校は現状希望、佐津小学校、奥佐津小学校では3分の2一歩手前まで統合希望があります。これはどういうことが原因なのか、地域、保護者の思いは、我々がなかなか推し量りすることができませんが、それぞれの学校でさまざまな事情に大きな乖離があるからなのかと素人的には思います。

それともう一つは、二中と一中の統合は、できるだけ地域の皆さんの思いを早く実現したいということで、学校の先生、地域の皆さん、また生徒、保護者の皆さんにも、大きな負担を与えながら短い期間で統合の運びにしました。

ただ、小学校の関係については、地域や保護者の皆さんに、現状のことについて、しっかりと説明をしなければなりません。

町内の幼稚園や保育園のあり方が、非常にいびつな形です。小代区は町立の認定こども園で就学前を全部賄い、小学校に行く。村岡区は3つありました保育園

を統合させていただきながらも、町立の幼稚園が小学校ごとに1年幼稚園で残っている。香住区は民間保育所が2園あり、2年幼稚園と1年幼稚園で保育してもらおうという、いびつな形が小学校に付随してあります。

統合希望の数値が、まだ3分の2を超えていないこと以上に、付随する諸問題をあわせて議論する必要がありますので、香住二中と香住一中の統合のようなわけにはいかないという思いがあります。

特に、数値が増えてきた佐津、奥佐津の関係で、保護者や地域の皆さんがイメージされている統合は、どことどこが統合して、どこの小学校になるのかということが、アンケートに答えられた保護者、地域の皆さんでも、さまざまなパターンがあると思いますので、皆さんの意見を何らかの形で検討なり、集約なり、分類ができるような仕組みを考えなければいけません。

事務局から説明がありましたが、年度が替わりましたら、今後10年間の香美町の教育のあり方を指し示す教育振興基本計画を策定しなければいけません。

教育振興基本計画に就学前は関係ありますか。

(教育総務課長)

関係あります。

(町長)

そうすると小学校にとどまらず、町内の認定こども園、保育園、町立の2年幼稚園のあり方も含めてどうするか、どういう方向を指し示すか。

保護者、地域の皆さんの意見集約は、なかなか難しいと思いますが、どのようなイメージを持っているのか、小学校だけ統合できるのかということも含めて、統合の議論をされている地域住民がおられるのであれば、小学校だけの議論ではないということを説明する場面も必要になると思います。

来年度、今後10年間の計画を検討する前段階で、地域や小学校の保護者あるいは幼稚園、保育園のこれから就学に向かう小さいお子さんをお持ちの家庭を含めて、地域の皆さんの考え方を集約、整理する取り組みが必要になると思いますが、委員の皆さんどうでしょうか。

(野村委員)

まずはひとつ、当事者として関わりました村岡区の保育園の統合、その時には、保護者自身がアンケートを取られたりして、要望を町長に提出された経緯があり、統合することへの反対はあまりありませんでした。

やはり、少ない子どもの人数で保育、教育をするよりも、子どもの思いやりや協調性、非認知的な能力の育成ということを考えたら、もう少し子どもをまとめて、少し群れて遊べるような教育環境を作ったほうが良いという保護者の理解がありました。また、幼稚園も一緒に統合して欲しいという意見もありました。

個人的な考え方ですが、子どもの人数の減り方から村岡小学校、兎塚小学校からの統合の意見が出てくるというのは、当然だと思っています。

現在、幼稚園をどうして欲しいという意見を、吸い上げるような形もありませんし、出てきませんが、潜在的には子どもの数から保育園も幼稚園も一つにして行くという方向について、合意が得られやすいと思います。その先には、就学前の教育は一貫してやるということで、村岡区の認定こども園化が視野に入ってくると思います。

小学校も人数から村岡区に一つになっていかざるを得ないと、個人的には感じます。地域の実情、子どもの数からすると待ったなしだと思うので、村岡区も就学前1園、小学校1、中学校1という体系にならざるを得ない方向ではないかと思っています。香住区については言えません。

義務教育の小学校の中で新しい流れが、どんどん起きてきています。ICT教育、英語科ができて5・6年生が英語を学ぶ。それから5・6年生に英語、数学、理科という教科担任制が入りました。そういうことと複式学級が果たして両立するのかということを一度考えてみる必要があると思います。小・中の義務教育学校として小中連携をしている地域もあります。それには、中学校からの教科担任制の教科指導の専門性との交流のことも視野に入っていると思います。

来年度に今後10年の香美町の方角性を考えていくことにおいては、本当に難しい、解決していかないといけないこと、方角性をしっかり出さないといけないことが多いと思います。まとまりませんでした。村岡区の状態を少し考えております。

(吉田委員)

町長が言われたように、一部分だけを見て考えるのではなくて、町全体、区ごと、それから幼稚園、こども園や保育所の関係もあります。

子どもの少子化は、どれにも当てはまる問題なので、今後の方向性に向けて話し合いの場を持ったり、アンケートをとったりしながら、検討したらいいと思います。

(教育長)

教育振興基本計画で我々が、香美町の教育環境はこれが良いという本線を描くことはできると思います。保護者の願い、地域の願い、全部をかみ合わせて、一本線ができるのであればいいですが、統合については、保護者や地域の意見をしっかりと聞かなければいけないという姿勢が大事な気がします。

今後、そういう事態が発生するのは目に見えている状況です。令和2年度の子どもの出生数からみると、学校はいわゆる地域に一つずつという思いがあります。そのことも踏まえて、大方の方にこの統合が良い、この組み合わせは教育環境が良いということと言われて進めていかないといけないということに時間もかかるし、難しさもあると思います。

もう一つ、次年度から御崎分校が休校になります。今年、御崎に1人子どもが生まれて、新聞記事では「余部小学校に通わせて欲しい」と言われております。

閉校ということは、すぐにできると思いますが、今までの御崎地区の取組の経過や思い、余部の人たちの御崎分校を大事にする思いもありますので、今後、保護者や余部地区の意見を十分に聞きながら検討に入っていきます。佐津も奥佐津も一緒です。

しっかりと意見を聞きながら、教育基本振興計画を作っていきたいと思います。まだまだ、教育委員会のお知恵を必要としますので、どうぞよろしくお願いします。

(安田委員)

長期の目で見ても統合が進められたとしても、香美町全体を見たら、子どもがどんどん減る一方であるということは、あまりにも将来性がないと思います。

少し教育委員会とは離れますが、今後、鳥取が通勤圏内になれば、子育て世代

の方がここに住めるまちづくりを進めることが、逆に町の教育を支えることに繋がってくるのではないかと思います。

子育て世代の方が香美町に住んで、町外に勤めに行って、また帰って来るとい
う、まちづくりを少し視野に入れて、並行しながら考える必要が町として大事か
だと思ひます。

(多田委員)

考えがまとまりませんが、就学前の子どもたちの保育についても、合わせて考
えなくてはいけないというのは、もっともだと思ひます。

いろいろな立場で、いろいろなご意見があると思ひますが、一番大事にしない
といけないのは、子どもたちにベストな教育の場を与えるということだと思ひま
す。その願ひが少しずつ違つてはいるけれども、香美町の子どもたちにベストな
教育の場が、どれくらいの規模なのかということをも最終的に掲げて考えれば、皆
さん歩み寄れると思ひます。

(町長)

さまざまなご意見をいただく中で、大きな課題が目の前に来ているという思ひ
です。すでに皆さんもご承知のように、香美町は学校の耐震化、エアコンの設置
など、子どもたちに最良の学ぶ場を提供したいという意味で、学校現場にかかる
費用については、経済的な判断はしないということでも関わってきたつもりです。
今後もそのような姿勢で臨みたいと思ひます。

ただ、佐津、奥佐津で統合を希望する保護者、地域の皆さんの数が増えてきた
ことをパズル合わせのよう進めるということではいけないのは、私たちみたいな門
外漢でも十分わかります。

今後の小学校のあり方について、計画を見れば、香美町の教育環境がこう流れ
ていくということと、幼稚園、保育所も含めて記述ができるような仕組みを皆さ
んとも相談しながら決めていきたいという思ひです。

大変重い問題ですし、近隣での動きもあります。ただ、隣の町に倣うというこ
とでは、特色ある町の教育環境の整備はできないと思ひます。香美町なりに地域
の皆さんの思ひがどこにあるのか、それを集約する場面をどう作っていくのか、

来年度上半期の大きな仕事になると思います。

学校統合に向けての議論については、これで終わりたいと思います。

今のまとめですが、アンケートを見ても、小規模校の良さを生かした教育にはどの学校も、保護者の皆さんから一定の理解や評価をしっかりといただいています。令和3年度は現行の体制の中で、今までの取組を継続して続けたいと考えております。

奥佐津、佐津で6割を超えた統合の意見があったことも踏まえて、他校でも将来的には統合も視野に入れる必要があるという意見もあります。来年度策定をする教育振興基本計画の素案を作成するまでに、統合希望の割合の高い地域については、保護者や地域の皆さんの意見を改めて確認する手段も講じていかなければならないと思います。

また、教育長からありました御崎分校の今後についても、保護者や地域の意見を聞きながら、どのような対応をしていくのかを検討していきたいと考えております。それでは、学校版教育環境会議について、これで終わりにしたいと思えます。

イ いじめ・不登校について

(町長)

続きまして、順番を入れ替えさせていただきました。協議事項の(1)のイでございます。「いじめ・不登校について」を議題といたします。ここからは非公開といたします。

《以下非公開》

《非公開解除》

(町長)

「いじめ・不登校について」は以上とさせていただきます。それでは、配布資料を回収させていただきます。

(2) その他

(町長)

次に協議事項の(2)ですが、委員の皆さんの方から教育行政に関するご意見等がありましたらよろしく願いいたします。

(教育長)

今年の冬は、朝よく凍っていました。小代の子どもで登校中に、凍ったところで滑って骨折しました。小代地域局長に話をしたら、歩道に消雪剤を撒いてもらいました。ありがたかったです。

(町長)

それでは、以上で協議事項を終了させていただきたいと思います。慎重なご協議ありがとうございました。今後も、この総合教育会議を通じて、協議・調整を行い、より一層連携を深めて、香美町の教育の充実に向けて、共に努力をしてみたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

あとは、事務局に返します。

(教育総務課長)

長時間にわたり、ありがとうございました。本日皆さんからいただいたご意見や方向性に従って、今後の教育行政を進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。